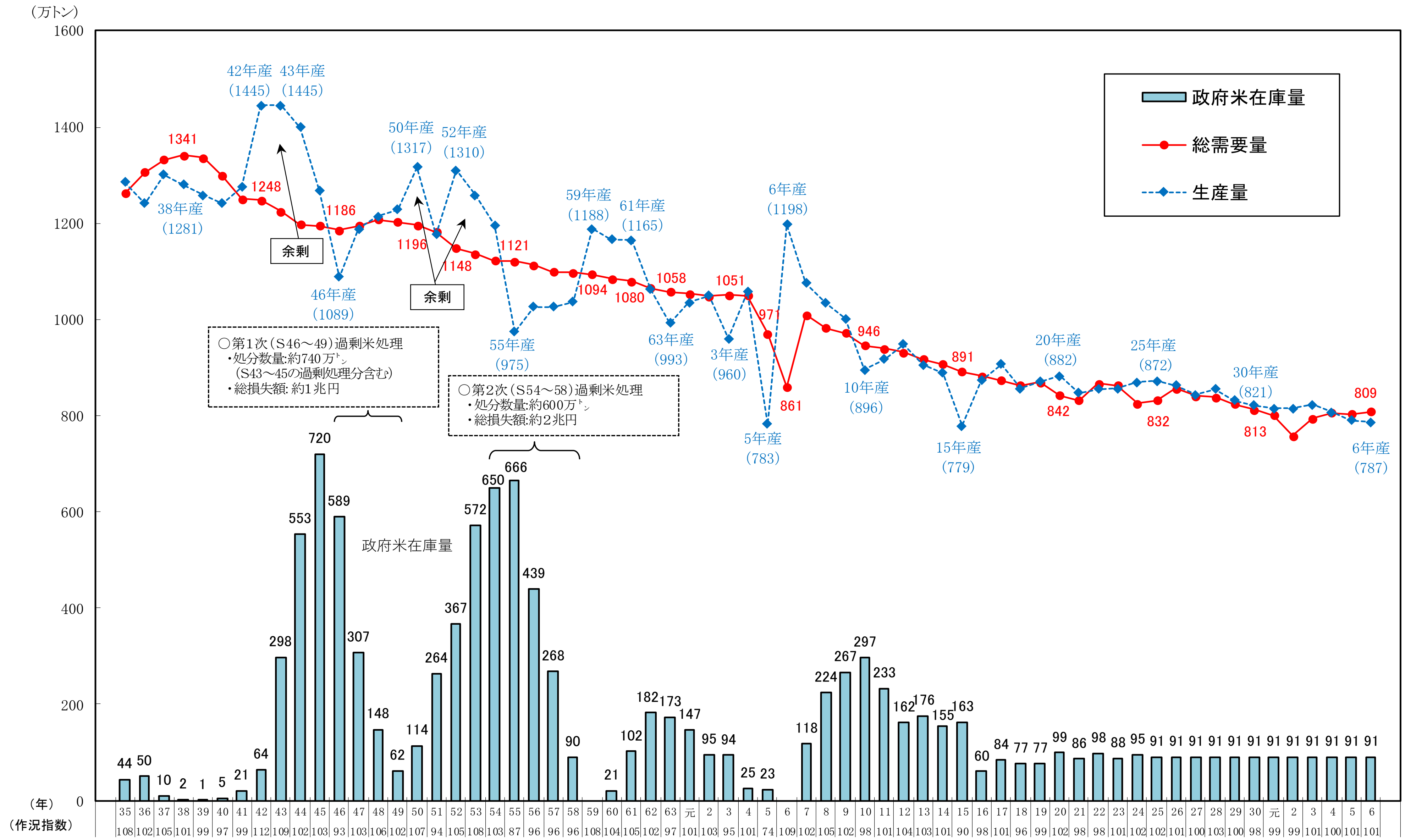
①我が国における米の状況

米の全体需給の状況（昭和35年～）



注1. 政府米在庫量は、外国産米を除いた数量である。
2. 政府米在庫量は、各年10月末現在である。ただし、平成15年以降は各年6月末現在である。
3. 平成12年10月末の政府米在庫量は、「平成12年緊急総合米対策」による援助用隔離等を除いた数量である。
4. 総需要量は、「食料需給表」（4月～3月）における国内消費仕向量（陸稲を含み、主食用（米菓・米穀粉を含む）のほか、飼料用、加工用等の数量）である。ただし、平成5年以降は国内消費仕向量のうち国産米のみの数量である。
5. 生産量は、「食料需給表」における国内生産量（「作物統計」の水陸稲の収穫量の合計に、飼料用米の数量を加えた数量）である。

主食用米等の令和7/8年及び令和8/9年の需給見通し（令和7年10月公表基本指針）

【令和７／８年の主食用米等の需給見通し】

			玄米ベース（万トン（玄米））	精米ベース（万トン（精米））
令和７／８年	令和7年6月末民間在庫量	A	155	138
	令和7年産主食用米等生産量	B＝C＋D	748	662～670
	うち生産者ふるい目幅以上	C	715	
	うち生産者ふるい目幅未満のうち、主食用米への供給見込量	D	32	
	令和7/8年政府備蓄米供給量	E	23	21
	令和7/8年主食用米等供給量計	F＝A＋B＋E	926	822～829
	令和7/8年主食用米等需要量	G	697～711	624～631
	令和8年6月末民間在庫量	H＝F－G	215～229	191～205

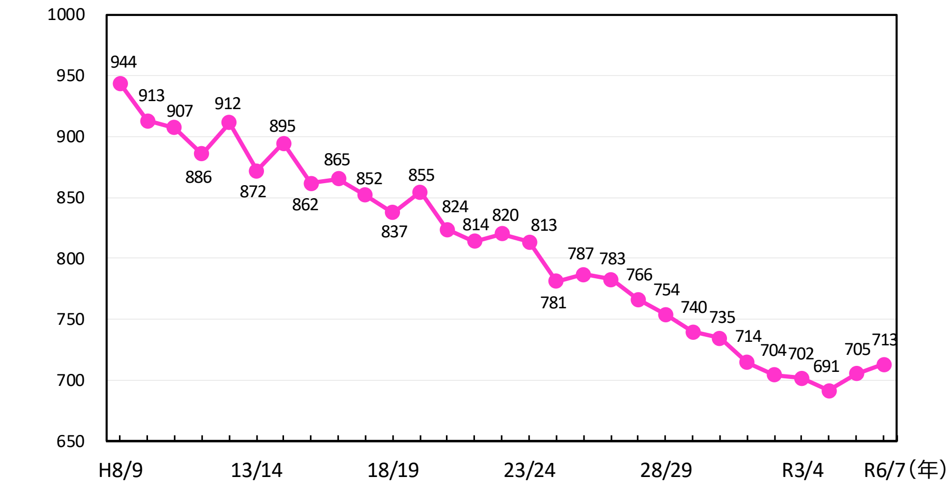
【令和８／９年の主食用米等の需給見通し】

			玄米ベース（万トン（玄米））	精米ベース（万トン（精米））
令和８／９年	令和8年6月末民間在庫量	H	215～229	191～205
	令和8年産主食用米等生産量	I	711	630～637
	令和8/9年主食用米等供給量計	J＝H＋I	926～939	821～841
	令和8/9年主食用米等需要量	K	694～711	622～630
	令和9年6月末民間在庫量	L＝J－K	215～245	191～220

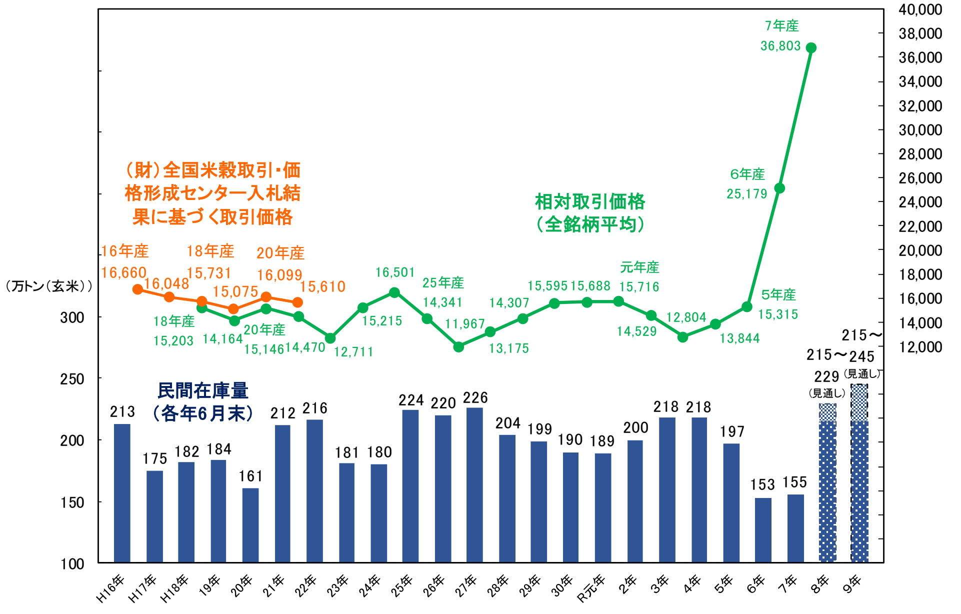
注：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

※１：事前契約による令和８年産備蓄米の政府買入れは21万玄米トンを予定。これは上記「令和８年産主食用米等生産量」には含まれていない。
※２：政府備蓄米の放出（全体で約59万玄米トン）に係る買戻し及び買入れは、今後の需給状況等を見定めた上で行う。
※３：上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、ＳＢＳ方式や枠外の民間輸入（令和６/７年：約４万実トン）による輸入米は含まれない。
※４：需給の見通しについては、今後の生産量や需要量の把握に努め、必要に応じて柔軟に対応。

主食用米の需要量の推移



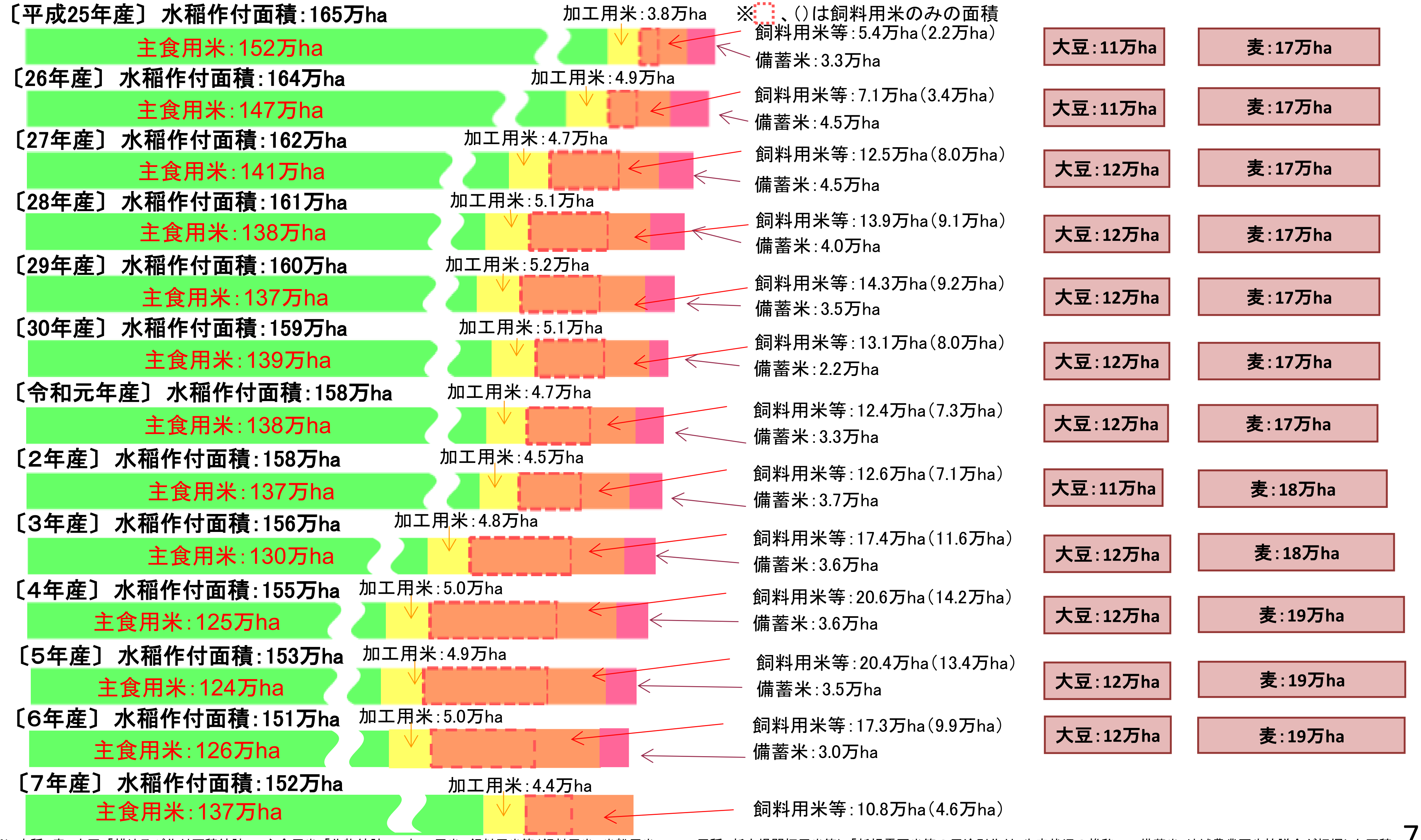
相対取引価格と民間在庫量の推移



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（７年産は７年11月の速報値）の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

水田の利用状況の推移

○ 主食用米の需給動向にあわせて、加工用米、飼料用米等の作付け状況も変化。
○ 令和7年産では、主食用米の需給動向を踏まえ、主食用米の作付けが大きく増加。



※ 水稲、麦、大豆：「耕地及び作付面積統計」、主食用米：「作物統計」、加工用米、飼料用米等（飼料用米、米粉用米、WCS用稲、新市場開拓用米等）：「新規需要米等の用途別作付・生産状況の推移」、備蓄米：地域農業再生協議会が把握した面積

米の用途別・年産別面積の推移

(単位：万ha)

年産＼用途	主食用米	生産量（万トン）（生産者使用ふるい目幅ベース）	備蓄米	加工用米	新規需要米	飼料用米	WCS用稲（稲発酵粗飼料用稲）	米粉用米	新市場開拓用米（輸出用米等）	酒造用米	その他
H20	159.6	… (866)	H22年産までは主食用米として生産	2.7	1.2	0.1	0.9	0.0	0.0	—	0.2
H21	159.2	… (831)		2.6	1.8	0.4	1.0	0.2	0.0	—	0.1
H22	158.0	… (824)		3.9	3.7	1.5	1.6	0.5	0.0	—	0.1
H23	152.6	… (813)	1.2	2.8	6.6	3.4	2.3	0.7	0.0	—	0.1
H24	152.4	… (821)	1.5	3.3	6.8	3.5	2.6	0.6	0.0	—	0.1
H25	152.2	… (818)	3.3	3.8	5.4	2.2	2.7	0.4	0.1	—	0.1
H26	147.4	… (788)	4.5	4.9	7.1	3.4	3.1	0.3	0.1	0.1	0.1
H27	140.6	723 (744)	4.5	4.7	12.5	8.0	3.8	0.4	0.2	0.1	0.0
H28	138.1	732 (750)	4.0	5.1	13.9	9.1	4.1	0.3	0.1	0.1	0.0
H29	137.0	708 (731)	3.5	5.2	14.3	9.2	4.3	0.5	0.1	0.1	0.0
H30	138.6	708 (733)	2.2	5.1	13.1	8.0	4.3	0.5	0.4	—	0.0
R元	137.9	706 (726)	3.3	4.7	12.4	7.3	4.2	0.5	0.4	—	0.0
R2	136.6	691 (723)	3.7	4.5	12.6	7.1	4.3	0.6	0.6	—	0.0
R3	130.3	670 (701)	3.6	4.8	17.4	11.6	4.4	0.8	0.7	—	0.0
R4	125.1	639 (670)	3.6	5.0	20.6	14.2	4.8	0.8	0.7	—	0.0
R5	124.2	639 (661)	3.5	4.9	20.4	13.4	5.3	0.8	0.9	—	0.0
R6	125.9	652 (679)	3.0	5.0	17.3	9.9	5.6	0.6	1.1	—	0.0
R7	136.7	718 (747)	—	4.4	10.8	4.6	4.9	0.4	0.9	—	0.0

注１　主食用米：統計部公表値。括弧書きはふるい目幅1.70mmベースの生産量。備蓄米：地域農業再生協議会が把握した面積。
　　　加工用米及び新規需要米：R6年産以前の面積は取組計画の認定面積。R7年産の面積は取組計画の届出面積。
注２　新規需要米の「酒造用米」については、「需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米であり、平成30年産以降は取りまとめていない。
注３　ラウンドの関係で、新規需要米の合計と内訳の計が合わない場合がある。

令和７年産水稲の作付面積及び収穫量

○　令和７年産から、生産者の実感に合うよう、生産者が使用しているふるい目幅（1.85mm、1.90mm等）で収穫量を公表。

○　令和７年産の全国の水稲の生産者が使用しているふるい目幅ベースの収穫量（主食用）は718万1,000ｔ（前年産に比べ66万2,000ｔ増加）。新規需要米や備蓄米等からの転換等があったため、主食用作付面積が136万7,000ha（同10万8,000ha増）となったことに加え、多くの地域で総じて天候に恵まれたため、10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）が526kg（同７kg増）と見込まれることが要因。全国の作況単収指数は102。

○　ふるい目幅1.70mmベースの収穫量（主食用）は746万8,000t（67万6,000t増）。

表　令和７年産水稲の作付面積（主食用）及び収穫量（全国農業地域別）

全国農業地域	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別					ふるい目幅1.70mmで選別					作況単収指数
	実数①	前年産との比較		10a当たり収量		収穫量（主食用（生産者ふるい上米））			10ａ当たり収量		収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））			
				実数②	前年産との比較	実数③＝①×②	前年産との比較		実数④	前年産との比較	実数⑤＝①×④	前年産との比較		
		対差	対比		対比		対差	対比		対比		対差	対比	
	ha	ha	%	kg	%	t	t	%	kg	%	t	t	%	
全国	1,367,000	108,000	109	526	101	7,181,000	662,000	110	547	101	7,468,000	676,000	110	102
北海道	90,400	6,700	108	549	98	496,300	25,900	106	574	97	518,900	23,400	105	98
東北	361,100	41,300	113	557	100	2,012,000	236,000	113	583	100	2,103,000	238,000	113	101
北陸	187,700	11,900	107	517	101	970,300	74,300	108	541	101	1,015,000	76,200	108	101
関東・東山	260,700	25,700	111	524	99	1,366,000	122,000	110	541	99	1,411,000	129,000	110	100
東海	87,000	3,600	104	490	103	425,700	30,100	108	505	103	439,000	31,500	108	103
近畿	93,500	2,900	103	507	104	473,900	31,900	107	527	104	492,700	33,100	107	105
中国	92,700	2,300	103	519	104	482,100	32,100	107	538	105	499,400	36,400	108	105
四国	43,700	1,400	103	495	105	215,800	16,400	108	505	105	220,000	16,400	108	106
九州	149,500	11,300	108	492	106	736,900	93,700	115	513	105	767,400	91,400	114	106
沖縄	597	40	107	310	97	1,850	70	104	313	96	1,870	50	103	99

注：１　作付面積（主食用）（①）とは、青刈り面積を含めた水稲全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

２　生産者が使用しているふるい目幅で選別された10ａ当たり収量（②）については、都道府県ごとに、過去５か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

３　収穫量（主食用（生産者ふるい上米））（③）及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米を含む））（⑤）については、都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

４　作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10ａ当たり収量の前年産までの５か年中３年平均（最高、最低除く）に対する10ａ当たり収量の比率である。

公表内容の見直し（作況指数から作況単収指数への移行）

令和７年産から公表

○　水稲収穫量調査について、統計値が生産現場の実感とかい離があるとの声が多かったことから、生産者の方々や生産者団体、地方自治体と意見交換を実施し、要因を把握。収穫量、作況指数などについて様々なご意見。

○　このうち、作況指数については、令和７年産より、近年の高温等気候変動を十分反映するとともに、収穫量全体を対比したものでないことを明確化した指標である作況単収指数に移行。

○作況指数から作況単収指数に移行（10月10日公表分～）

旧　**～令和６年産**

作況指数 ＝ 10a当たり収量 ／ 10a当たり**平年**収量（過去30年のトレンド） × 100

収穫量全体を平年と比較したものと**の認識**が多い

直近の収量と比較する生産者の実感とズレ

新　**令和７年産～**

作況単収指数 ＝ 10a当たり収量 ／ 10a当たり**平均**収量（前年産までの5年中3年平均） × 100

収穫量全体を対比したもの**でないことを明確化**

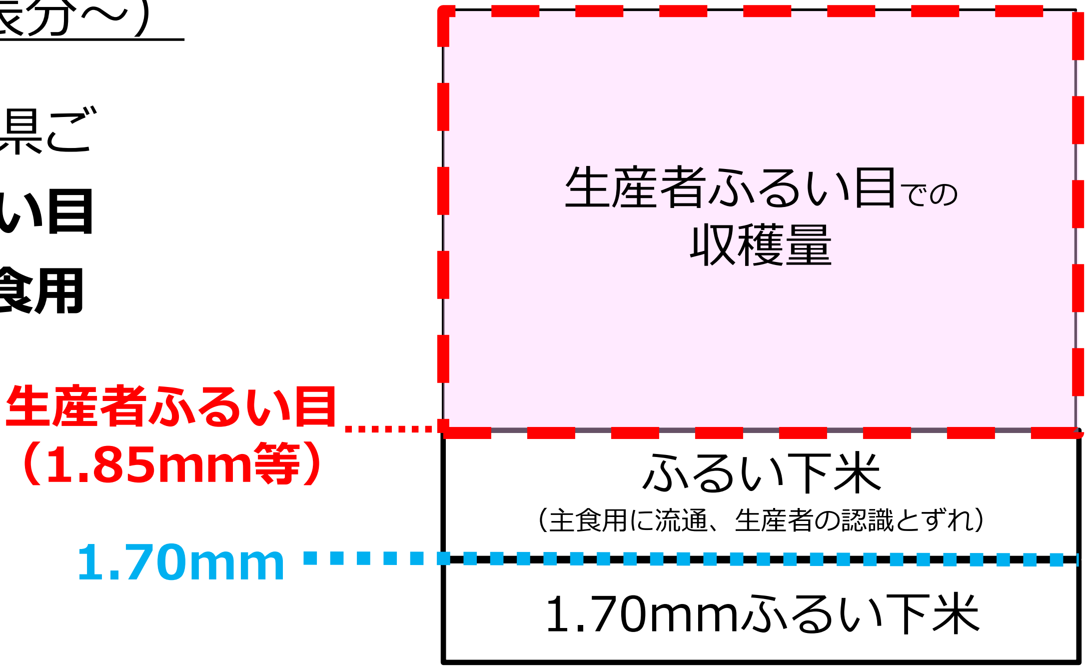
公表内容の見直し（ふるい目幅の見直し、白未熟粒等の割合）

令和７年産から公表

- ○　令和７年産より生産現場の認識を踏まえ、ふるい目を見直し、新たに生産者ふるい目での主食用収穫量を公表。
- ○　また、高温等が米の供給量に影響を与え得ることを踏まえ、坪刈りサンプルから把握できる白未熟粒や着色粒等の割合を参考情報として公表。

○ふるい目幅の見直し（10月10日公表分～）

生産現場の認識を踏まえ、都道府県ごとに最も使用されている**生産者ふるい目（1.85、1.90mm等）で新たに主食用収穫量を公表**しつつ、引き続き**1.70mmの収穫量も公表。**



○白未熟粒、着色粒等の割合公表（11月18日公表分～）

坪刈りしたサンプルを器械にかけ、**白未熟粒、着色粒、胴割れ粒等の割合**を生産者の選別によってはじかれることとなる米の割合の**参考情報として公表。**

調査方法見直しの方向性（生産者等の収穫量データの活用）

令和７年産から試行

○ 約8,000筆の坪刈り調査に加え、**令和７～８年産において、試行的に生産者等から収穫量データを収集**するほか、**JA等の乾燥調製施設のデータ**について統計的に**活用可能か検証。**

○ 調査手法を検証した上で、**令和９年産から、生産者等の収穫量データを活用した調査を本格導入**（調査対象の面積：２千ha→ 13万ha（全面積の約１割）、数：8千→2.1万）し、**精度を２倍に高めることを目指す。**

○現在：筆ごとの坪刈り調査

①坪刈りほ場の選定

母集団（約200万区画）　坪刈りほ場選定のための区画（全国で約8,000区画）　坪刈りほ場（全国で約8,000筆）

②坪刈り調査

約8,000筆（約２千ha）の結果から126万ha※の単収を推計

※令和６年産主食用作付面積。

・実際に収穫しているコンバインでの収穫量を調査
・面積カバー率の飛躍的拡大

○今後：生産者等の収穫量データの収集

７年産から試行的に生産者等の収穫量データを収集し、調査手法を検証

令和７年産：**約600経営体（約2.6万ha）**
令和８年産：**約5,500経営体（約10.2万ha）**

JA等のデータが活用可能か検証

本格導入
※統計委員会の要承認

令和９年産：**約21,000経営体（約13万ha）**のデータから単収を推計

※生産者に加え、JAの乾燥調製施設等のデータが統計的に活用可能であれば、活用。

水稲作付面積の１割（約13万ha）をカバーし、調査対象数増（約8,000→約21,000）により精度を２倍に高めることを目指す。

○生産者等の収穫量データによる統計作成の取組イメージ

令和６年産

調査対象面積 約２千ha

６年産主食用126万ha

坪刈り
約8,000筆
（約２千ha）

約126万ha分の単収を推計

生産者等の収穫量データに基づく調査手法に移行し、坪刈りで補完

令和９年産

調査対象面積 約13万ha

大規模経営体
(50ha以上を想定)
約1,100経営体 全数調査
（約９.4万ha）

中小規模経営体
約20,000経営体
（約３.６万ha）

約117万ha分の単収を推計

坪刈り 約5000筆

７～８年の検証の結果、統計的に活用可能であればJA等データも活用

調査方法見直しの方向性（生産現場からの情報収集の強化）

令和７年産から取組

○ 坪刈りほ場の場所を関係機関に情報提供し、気象や病害虫の被害情報等をきめ細やかに収集し、調査結果に反映することで、調査精度を向上。

○ **令和７年産から県や農業団体等の関係機関からの情報収集を強化**するほか、**令和８年産から生産者からのリアルタイムデータの収集・活用を検討。**

○　坪刈りほ場の場所を関係機関へ情報提供、被害情報等をきめ細かく収集

令和７年産から開始

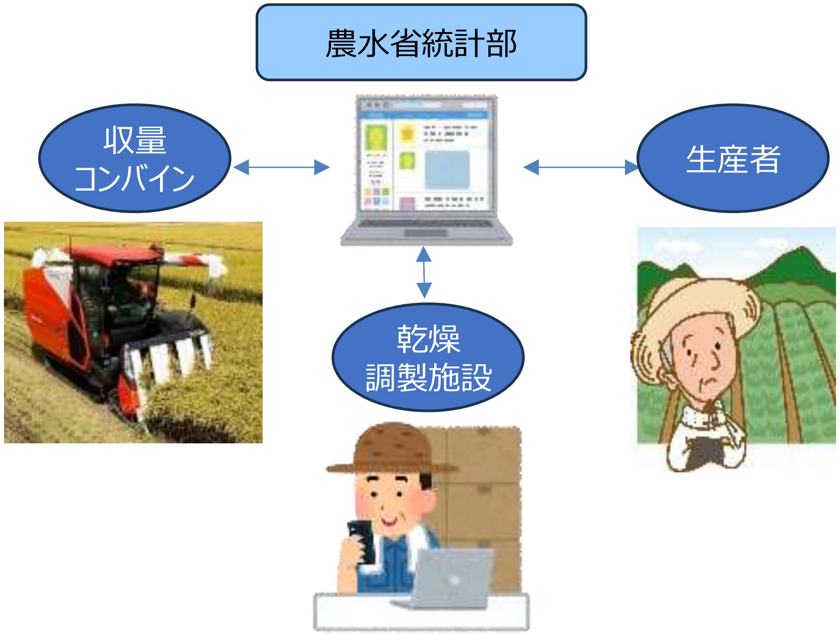
地図に坪刈りほ場をプロットし、関係機関（県、JA、農業共済）に提供。

調査時期ごとの意見交換を通じて、坪刈り調査が実施されない地域の被害による減収を着実に把握し、調査結果に反映。

○　生産者等からのリアルタイムデータの収集・活用の検討

令和８年産からの実施を検討

大規模生産者等からの収量コンバインの収穫量や高温障害等の気象被害の状況、カメムシ等による病虫害の状況などのデータを提供いただき、調査結果へ反映する仕組みを検討。



調査方法見直しの方向性（人工衛星データ・ＡＩの活用）

将来に向けた取組

○ 人工衛星データ・AIを活用した収量予測のための実証研究を新たに実施し、**将来的な日本全国全ての作付地の人工衛星データを解析する全面積調査を志向し、収量把握の実証研究を実施。**

○　人工衛星データ・AIを活用した収量予測

令和７年度

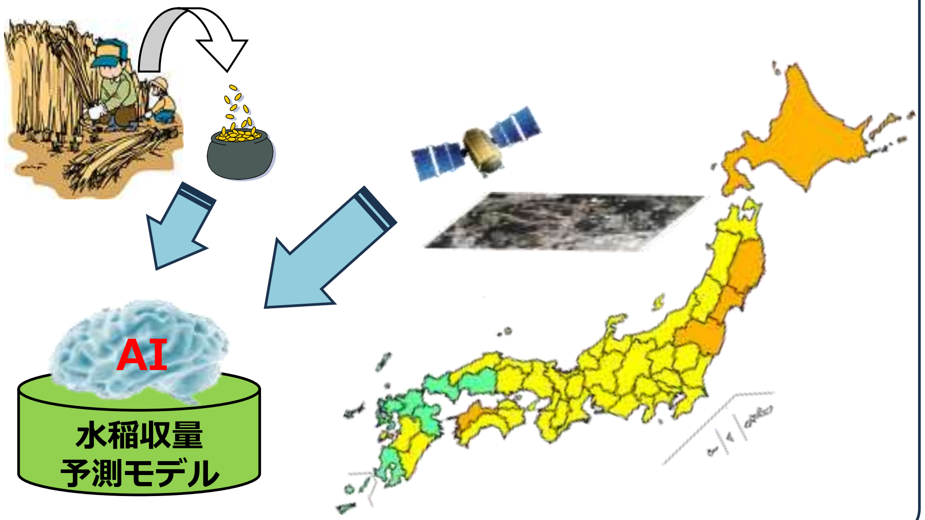
ITベンダーを公募し、ほ場毎の収量データを提供し、人工衛星データ・AIを活用した収量予測の取組を開始（９社）。

今後の実証研究の取組

令和７年度の取組結果を踏まえ、有望な技術について実証研究を実施し、予測精度を向上。

【収量予測モデルイメージ】

人工衛星画像やデータと、坪刈り調査結果をもとに収量予測モデルを作成し、水稲の収量を予測。



令和7年産の水田における作付状況（令和7年9月15日時点））①

○　令和７年産の主食用米の作付面積は、前年実績（125.9万ha）から**10.8万ha**（６月末時点の作付意向から**0.4万ha**）増加し、**136.7万ha**となった。
○　戦略作物等の作付面積は、いずれの品目も減少するとともに、畑地化面積については、0.8万haとなった。

【主食用米、備蓄米及び戦略作物の作付状況】

（万ha）

年　産	主食用米	備蓄米	戦略作物等									
			加工用米	新規需要米					麦	大　豆	飼料作物そばなたね	戦略作物等合計面積
				新規需要米	新市場開拓用米（輸出用米等）	米粉用米	飼料用米	WCS用稲（稲発酵粗飼料用稲）				
H30年産	138.6	2.2	5.1	13.1	0.4	0.5	8.0	4.3	9.7	8.8	10.2	47.0
R元年産	137.9	3.3	4.7	12.4	0.4	0.5	7.3	4.2	9.7	8.6	10.2	45.6
Ｒ２年産	136.6	3.7	4.5	12.6	0.6	0.6	7.1	4.3	9.8	8.5	10.2	45.6
Ｒ３年産	130.3	3.6	4.8	17.4	0.7	0.8	11.6	4.4	10.2	8.5	10.2	51.2
Ｒ４年産	125.1	3.6	5.0	20.6	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	9.9	54.9
Ｒ５年産	124.2	3.5	4.9	20.4	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	8.5	53.1
Ｒ６年産	125.9	3.0	5.0	17.3	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4	7.4	48.3
Ｒ７年産	136.7	―	4.4	10.8	0.9	0.4	4.6	4.9	9.5	7.5	6.7	38.8
対前年差	10.8	▲ 3.0	▲ 0.6	▲ 6.5	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 5.3	▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 1.0	▲ 0.8	▲ 9.5
畑地化面積	―	―	―	―	―	―	―	―	0.1	0.1	0.3	※(0.8) 0.5

注１：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）のＲ６年産以前の実績は、取組計画の認定面積。Ｒ７年産は取組計画の届出面積。
２：麦、大豆、飼料作物、そば及びなたねは、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
３：備蓄米は、Ｒ７年産米の入札を中止。Ｒ６年産以前の実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。
４：Ｒ７年産畑地化面積は、令和７年度に畑地化促進事業で採択された面積。また、戦略作物等合計面積欄の0.8万haについては、麦、大豆、飼料作物、そば、なたねのほか、高収益作物等を加えた面積。
５：単位未満で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

令和7年産の水田における作付状況（令和７年9月15日時点））②

（ha）

都道府県	主食用米 ①	【参考】前年産（6年産）②	【参考】増 減 ①−②	戦略作物等 加工用米	戦略作物等 前年産からの増減	戦略作物等 新規需要米	戦略作物等 前年産からの増減	戦略作物等 新市場開拓用米（輸出用米等）	戦略作物等 米粉用米	戦略作物等 飼料用米	戦略作物等 WCS用稲（稲発酵粗飼料用稲）	戦略作物等 その他	戦略作物等 麦	戦略作物等 大 豆	戦略作物等 飼料作物	戦略作物等 そ ば	戦略作物等 なたね	戦略作物等 戦略作物等合計	【参考】R7年産畑地化面積
全国計	136.7万	125.9万	10.8万	44,190	▲ 6,007	107,502	▲ 65,288	9,003	3,514	46,004	48,896	84	94,809	74,900	43,840	22,151	533	387,923	7,800
北海道	90,400	83,700	6,700	8,103	1,303	7,553	▲ 2,901	2,114	93	2,305	3,042	−	29,659	14,763	6,980	4,775	336	72,169	5,029
青 森	43,700	37,200	6,500	344	▲ 336	5,233	▲ 1,560	292	16	4,248	676	−	475	4,254	2,548	853	2	13,709	343
岩 手	46,900	43,100	3,800	798	▲ 479	5,267	▲ 2,520	350	19	2,894	2,004	1	3,332	3,716	5,412	532	12	19,069	244
宮 城	65,300	58,400	6,900	1,810	865	6,464	▲ 4,979	815	56	3,330	2,261	2	2,243	8,570	4,532	365	0	23,984	153
秋 田	81,200	72,200	9,000	5,581	▲ 2,838	2,451	▲ 2,189	453	171	809	1,016	2	117	7,328	1,637	3,391	−	20,504	144
山 形	57,100	52,400	4,700	4,698	390	4,847	▲ 1,764	450	53	3,109	1,230	5	100	4,049	2,072	3,652	2	19,419	809
福 島	67,000	56,500	10,500	946	518	2,423	▲ 5,836	98	20	1,440	865	0	367	804	1,523	1,297	103	7,465	113
茨 城	66,700	59,900	6,800	1,082	▲ 209	5,716	▲ 6,454	898	98	4,173	546	1	3,571	656	434	425	0	11,884	110
栃 木	58,100	49,000	9,100	1,693	▲ 219	7,190	▲ 7,666	48	176	5,014	1,952	−	6,632	360	2,555	1,206	6	19,642	103
群 馬	14,700	12,800	1,900	206	▲ 1,150	923	▲ 956	3	120	242	557	−	1,405	97	153	15	−	2,798	13
埼 玉	30,600	28,400	2,200	44	▲ 100	1,273	▲ 1,896	19	314	816	123	−	2,222	299	150	100	1	4,089	2
千 葉	53,100	48,300	4,800	1,514	▲ 558	3,159	▲ 4,958	81	42	2,065	971	−	429	171	239	5	−	5,515	24
東 京	112	107	5	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
神奈川	2,840	2,840	0	−	−	9	▲ 6	−	−	7	2	−	2	3	1	0	−	15	0
新 潟	108,600	101,400	7,200	6,642	▲ 118	4,234	▲ 2,538	1,546	723	1,334	630	0	226	3,307	277	680	−	15,366	31
富 山	33,700	31,200	2,500	1,271	128	2,621	▲ 509	364	258	1,472	528	−	2,923	3,581	301	250	22	10,969	17
石 川	22,100	21,200	900	595	67	449	▲ 507	28	189	121	112	−	1,107	798	28	145	−	3,123	1
福 井	23,300	21,900	1,400	787	294	1,337	▲ 743	277	85	851	125	−	4,985	45	35	524	−	7,712	3
山 梨	4,560	4,590	▲ 30	55	▲ 12	54	▲ 7	−	17	13	24	−	55	83	17	112	−	377	−
長 野	30,000	29,000	1,000	423	▲ 333	579	▲ 339	175	36	136	233	−	2,288	564	476	1,925	−	6,255	87
岐 阜	20,800	19,600	1,200	987	▲ 153	2,079	▲ 1,229	58	67	1,660	295	−	3,601	241	546	250	6	7,709	23
静 岡	14,700	14,400	300	26	▲ 72	614	▲ 500	1	6	290	317	−	170	20	36	24	0	891	7
愛 知	25,700	25,000	700	520	▲ 130	1,439	▲ 399	36	292	971	140	−	5,557	47	120	5	4	7,693	−
三 重	25,700	24,500	1,200	111	▲ 65	1,296	▲ 1,165	91	33	862	310	−	6,721	115	178	7	4	8,434	1

注１：主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米の面積。
　２：加工用米及び新規需要米は、取組計画の届出面積。
　３：麦、大豆、飼料作物、そば及びなたねは、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
　４：Ｒ７年産畑地化面積は、令和７年度に畑地化促進事業で採択された面積。
　５：単位未満で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

令和7年産の水田における作付状況（令和７年9月15日時点） ③

（ha）

都道府県	主食用米 ①	【参考】		戦略作物等															
		前年産（6年産） ②	増 減 ①−②	加工用米	前年産からの増減	新規需要米	前年産からの増減	新市場開拓用米（輸出用米等）	米粉用米	飼料用米	WCS用稲（稲発酵粗飼料用稲）	その他	麦	大 豆	飼料作物	そ ば	なたね	戦略作物等合計	【参考】R7年産畑地化面積
滋 賀	29,300	27,400	1,900	296	▲ 209	1,104	▲ 1,037	136	37	601	330	−	7,941	620	179	113	9	10,262	18
京 都	13,200	13,000	200	355	▲ 174	244	▲ 84	19	10	69	147	−	254	214	51	130	−	1,249	10
大 阪	4,100	4,290	▲ 190	0	▲ 0	7	▲ 6	−	1	1	5	−	1	5	1	−	−	15	4
兵 庫	33,600	32,200	1,400	563	▲ 104	1,387	▲ 604	193	29	250	910	6	1,810	1,351	648	94	8	5,861	61
奈 良	7,750	7,960	▲ 210	4	▲ 7	60	▲ 45	−	13	8	39	−	74	28	4	1	0	170	7
和歌山	5,600	5,680	▲ 80	−	−	5	▲ 2	−	1	2	2	−	9	8	1	2	−	24	0
鳥 取	12,000	11,600	400	19	2	855	▲ 320	19	1	426	410	0	80	450	707	300	−	2,410	56
島 根	16,100	15,700	400	117	▲ 83	1,180	▲ 400	0	7	453	720	0	205	441	368	252	5	2,567	12
岡 山	28,100	27,200	900	98	▲ 183	1,018	▲ 936	216	27	297	477	−	898	706	781	96	−	3,596	38
広 島	20,200	20,100	100	165	▲ 193	855	▲ 388	38	67	113	638	0	254	180	841	222	−	2,517	33
山 口	16,300	15,800	500	828	▲ 143	1,128	▲ 429	93	18	589	427	−	749	605	718	30	0	4,058	4
徳 島	10,300	9,790	510	3	▲ 17	362	▲ 563	2	4	168	187	−	47	2	77	2	−	493	−
香 川	10,100	9,770	330	22	▲ 31	426	▲ 149	21	8	60	337	−	1,083	30	199	3	1	1,765	−
愛 媛	12,700	12,700	0	46	0	380	▲ 206	−	2	160	218	−	392	251	189	3	−	1,261	11
高 知	10,500	10,100	400	73	▲ 10	830	▲ 574	−	15	492	323	−	3	48	111	0	−	1,065	14
福 岡	34,500	32,200	2,300	180	▲ 34	3,134	▲ 1,577	3	235	937	1,958	−	1,195	6,673	374	37	1	11,592	74
佐 賀	23,700	22,000	1,700	320	▲ 56	2,230	▲ 784	15	12	451	1,753	−	210	6,281	329	12	0	9,384	33
長 崎	9,460	9,360	100	4	▲ 1	1,486	▲ 245	13	3	76	1,395	−	76	191	1,543	35	2	3,338	15
熊 本	31,900	28,800	3,100	282	▲ 385	8,896	▲ 2,118	26	59	564	8,202	45	632	1,741	1,666	153	6	13,376	118
大 分	18,900	17,800	1,100	119	▲ 40	3,342	▲ 1,263	5	56	1,015	2,266	−	599	795	825	72	1	5,753	16
宮 崎	13,500	12,400	1,100	1,550	▲ 559	7,570	▲ 766	8	16	768	6,758	19	12	187	2,640	26	0	11,986	11
鹿児島	17,600	15,600	2,000	877	▲ 566	3,757	▲ 1,158	−	10	340	3,405	2	98	220	1,318	29	−	6,297	6
沖 縄	597	557	40	34	▲ 6	35	▲ 12	−	1	2	32	−	−	−	22	−	−	91	−

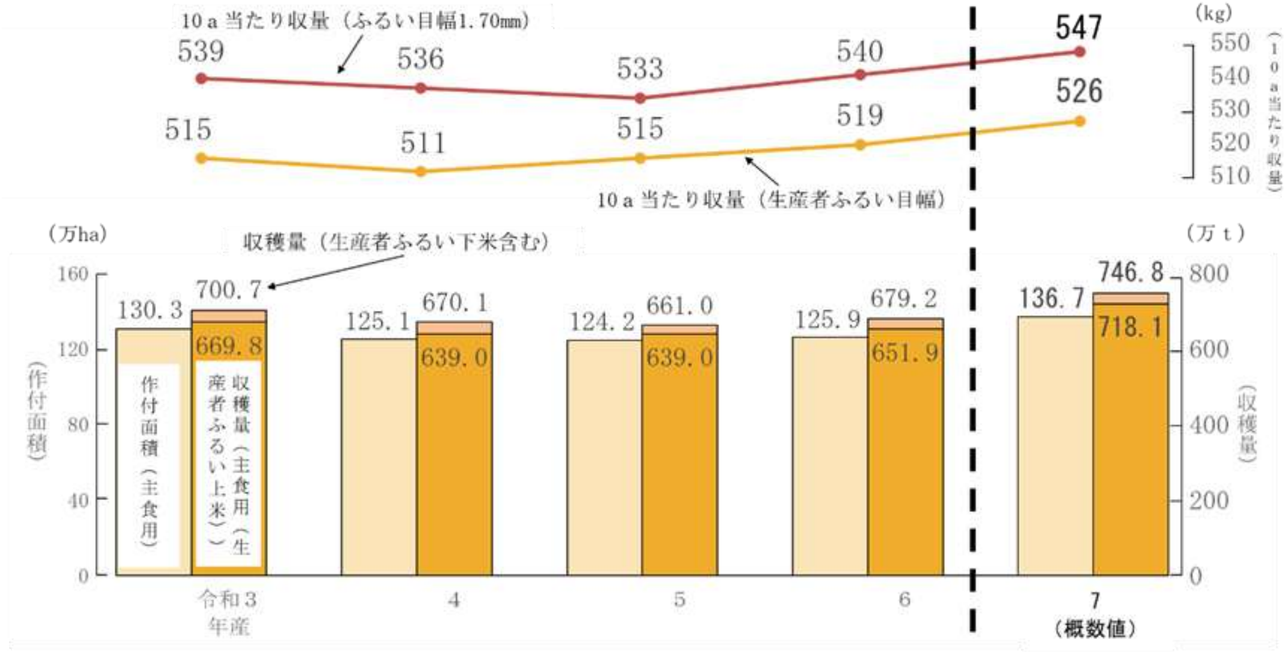
注１：主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米の面積。
２：加工用米及び新規需要米は、取組計画の届出面積。
３：麦、大豆、飼料作物、そば及びなたねは、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
４：Ｒ７年産畑地化面積は、令和７年度に畑地化促進事業で採択された面積。
５：単位未満で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

令和７年産主食用米の収穫量

○ 令和7年産の水稲の生産者が使用しているふるい目幅(1.80mm～1.90mm)ベースの収穫量(主食用)は718.1万トンで、前年産に比べ66.2万トン増加と見込まれる。これは、
① 作付面積(主食用)が、新規需要米や備蓄米等からの転換等があったため、136.7万haで、前年産に比べ10.8万ha増加となったことに加え、
② 全国の10a当たり収量(生産者が使用しているふるい目幅ベース)は、一部地域で5月上旬から6月中旬にかけての気温や日照時間が前年を下回る地域があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれたため、526kgで、前年産に比べ7kg増加と見込まれるためである。

○ 令和7年産の水稲のふるい目幅1.70mmベースの収穫量(主食用)は746.8万トンで、前年産に比べ67.6万トン増加と見込まれる。

【水稲の作付面積（主食用）、10ａ当たり収量及び収穫量の推移（全国）】



資料：農林水産省大臣官房統計部「作物統計調査　令和７年産水陸稲の収穫量」

注：1　作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稲全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（９月15日時点）を除いた面積である。
2　10ａ当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
3　10ａ当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量である。
4　沖縄県については、一部収穫を終えていないため、収穫の状況によっては今後変動することがある。

米の販売数量及び民間在庫の推移（令和７年11月）

- ○ 令和６年７月以降の米穀販売事業者における販売数量は、７～８月は概ね前年を上回って推移していたものの、９月以降は前年を下回る数量となり、令和６年７月～７年６月の累計数量は、対前年比95%（うち中食・外食事業者等向けは対前年比98%、小売事業者向けは対前年比92%）。また、令和７年11月は、対前年比91% （うち中食・外食事業者等向けは対前年比90%、小売事業者向けは対前年比92%）。
- ○ 令和７年11月末現在の全国の民間在庫は、出荷・販売段階の計で対前年差＋70万トンの329万トンとなっており、出荷段階は対前年差＋47万トンの247万トン、販売段階は対前年差+22万トンの82万トンとなっている。

【米穀販売事業者における販売数量の動向（前年同月比）（速報）】

	6年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	6年7月 ~7年6月計	7年 7月	8月	9月	10月	11月
小売事業者向け	104%	100%	86%	85%	93%	92%	94%	89%	86%	92%	93%	88%	92%	94%	84%	99%	107%	92%
中食・外食事業者等向け	99%	100%	97%	100%	100%	101%	101%	95%	98%	97%	90%	98%	98%	93%	91%	94%	93%	90%
販売数量計	102%	100%	91%	92%	96%	96%	97%	92%	91%	94%	92%	92%	95%	94%	87%	96%	100%	91%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000㌧以上の販売事業者（年間取扱数量約160万㌧（令和6年産主食用米等の生産量679万㌧の約2割））である。
　2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。
　3：令和7年3月以降には、売り渡した政府備蓄米を含む。

【購入数量の推移（家計調査）】

(単位：g)

		6年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	7年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	6年7月 ~7年6月計	7年 7月	8月	9月	10月
米	購入数量	4,370	5,730	6,350	7,650	5,110	5,210	3,760	3,860	4,380	4,500	4,590	4,550	60,060	4,340	5,310	7,980	7,940
	前年同期比	99.5%	129.1%	104.8%	113.3%	113.8%	98.5%	106.8%	98.5%	97.6%	102.7%	94.3%	98.1%	104.9%	99.3%	92.7%	125.7%	103.8%
パン	購入数量	3,460	3,547	3,340	3,381	3,471	3,572	3,350	3,178	3,752	3,722	3,659	3,299	41,731	3,327	3,508	3,444	3,470
	前年同期比	102.3%	103.8%	94.9%	95.3%	100.8%	97.9%	95.7%	89.6%	96.4%	97.6%	99.3%	94.0%	97.3%	96.2%	98.9%	103.1%	102.6%
めん類	購入数量	2,965	3,136	2,557	2,585	2,658	3,231	2,688	2,574	2,994	2,824	3,061	2,922	34,195	3,251	3,039	2,471	2,615
	前年同期比	93.4%	104.6%	107.0%	97.7%	100.2%	100.1%	96.9%	100.7%	110.0%	112.3%	114.3%	102.5%	103.1%	109.6%	96.9%	96.6%	101.2%

資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

【民間在庫量の推移（出荷＋販売段階）（速報）】

(単位：万トン(玄米))

		当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
６／７年	出荷+販売段階	82	65	149	244	259	253	229	205	180	168	148	121
	出荷段階	58	44	113	187	200	196	179	159	135	125	109	84
	販売段階	25	21	36	58	59	56	50	46	45	43	40	37
７／８年	出荷+販売段階	92	84	197	306	329							
	対前年差	+10	+19	+48	+62	+70							
	出荷段階	60	51	144	226	247							
	対前年差	+2	+7	+31	+39	+47							
	販売段階	32	33	53	81	82							
	対前年差	+8	+12	+17	+23	+22							

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
　2：報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
　3：期間については、7/8年であれば、令和7年7月～8年6月である。
　4：令和7年3月以降には、売り渡した政府備蓄米の数量（令和7年11月末時点で0.2万トン）を含む。

産地別民間在庫の状況（令和７年11月）

（単位：千トン（玄米））

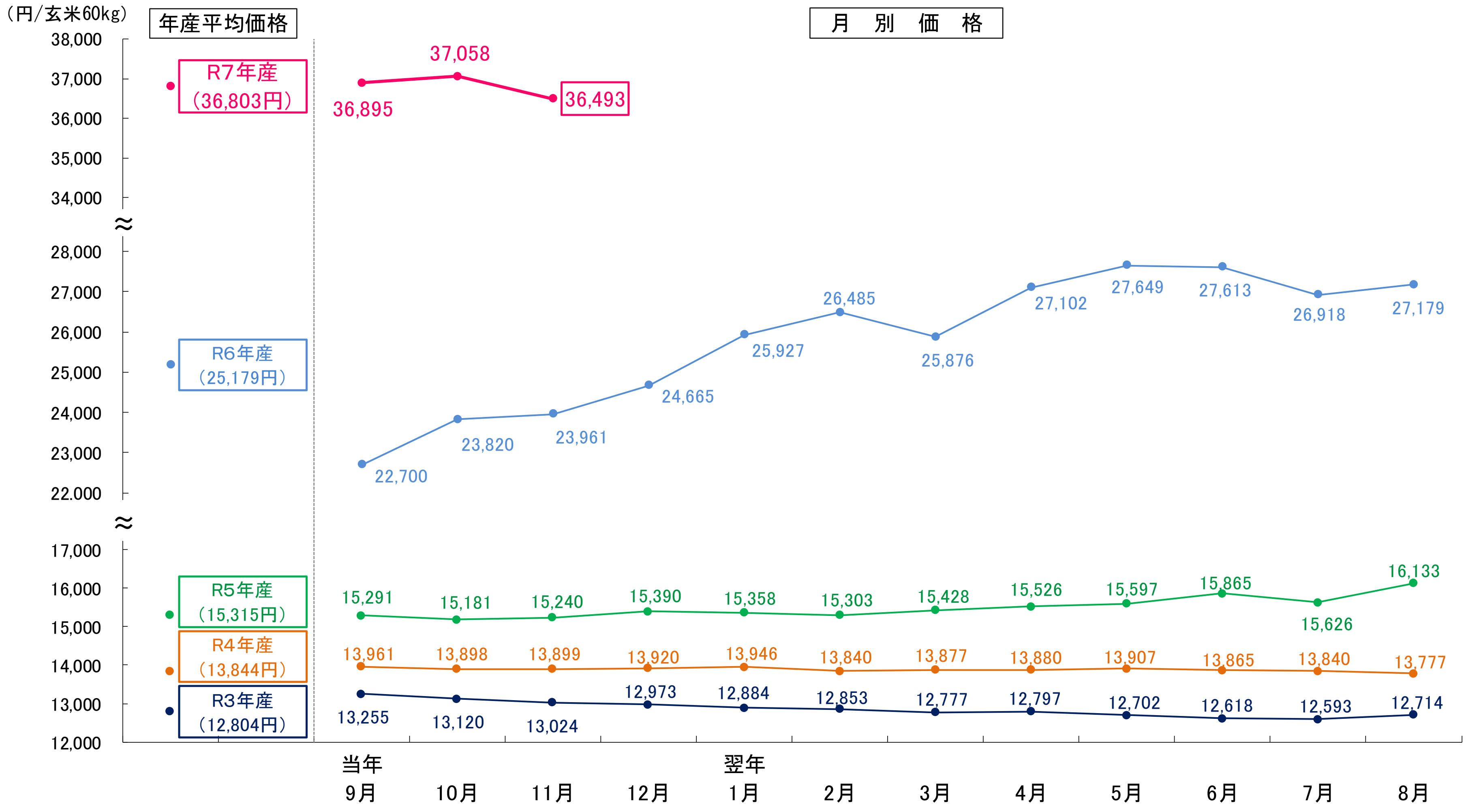
	６年１０月 ①（千玄米トン）	６年１１月 ②（千玄米トン）	７年１０月 ③（千玄米トン）	対前年同月差 ④=③-①（千玄米トン）	対前年同月比 ⑤=③/①（%）	７年１１月 ⑥（千玄米トン）	対前年同月差 ⑦=⑥-②（千玄米トン）	対前年同月比 ⑧=⑥/②（%）
北海道	285.2	297.0	294.3	+9.1	+3.2%	310.4	+13.5	+4.5%
青森	124.5	130.5	180.2	+55.7	+44.7%	186.8	+56.3	+43.1%
岩手	98.9	114.5	106.3	+7.5	+7.6%	122.7	+8.3	+7.2%
宮城	128.6	136.4	159.1	+30.5	+23.7%	154.4	+18.0	+13.2%
秋田	206.4	220.5	273.8	+67.5	+32.7%	289.1	+68.6	+31.1%
山形	152.6	161.3	183.5	+30.9	+20.2%	202.5	+41.2	+25.5%
福島	162.0	168.8	206.4	+44.4	+27.4%	218.9	+50.1	+29.7%
茨城	112.0	105.2	151.8	+39.7	+35.5%	149.8	+44.6	+42.4%
栃木	120.1	131.9	143.8	+23.6	+19.7%	171.7	+39.8	+30.2%
群馬	2.3	11.2	5.5	+3.2	+135.1%	20.6	+9.4	+83.7%
埼玉	14.8	20.1	27.1	+12.3	+82.8%	32.1	+12.0	+59.8%
千葉	63.7	59.1	97.5	+33.8	+52.9%	90.0	+30.9	+52.2%
東京	0.0	0.0	0.0	+0.0	-	0.0	+0.0	-
神奈川	1.8	1.3	2.0	+0.3	+15.0%	1.8	+0.5	+36.8%
山梨	3.7	3.6	3.1	▲0.6	▲16.2%	3.1	▲0.5	▲13.2%
長野	58.3	65.1	58.9	+0.7	+1.1%	68.5	+3.5	+5.3%
静岡	17.0	16.3	24.2	+7.2	+42.4%	24.7	+8.4	+52.0%
新潟	256.9	248.8	321.0	+64.1	+24.9%	318.3	+69.5	+27.9%
富山	78.0	79.9	88.0	+9.9	+12.7%	89.6	+9.7	+12.1%
石川	64.3	57.5	77.4	+13.2	+20.5%	74.3	+16.8	+29.2%
福井	50.1	46.7	64.8	+14.8	+29.5%	63.7	+17.0	+36.5%
岐阜	12.7	21.5	19.0	+6.3	+49.1%	29.4	+7.9	+36.8%
愛知	18.7	24.7	23.7	+4.9	+26.3%	34.6	+9.9	+40.0%
三重	28.9	26.7	39.7	+10.8	+37.4%	39.3	+12.6	+47.2%

	６年１０月 ①（千玄米トン）	６年１１月 ②（千玄米トン）	７年１０月 ③（千玄米トン）	対前年同月差 ④=③-①（千玄米トン）	対前年同月比 ⑤=③/①（%）	７年１１月 ⑥（千玄米トン）	対前年同月差 ⑦=⑥-②（千玄米トン）	対前年同月比 ⑧=⑥/②（%）
滋賀	43.0	44.1	50.2	+7.2	+16.8%	56.5	+12.4	+28.0%
京都	7.9	7.7	9.4	+1.6	+20.0%	11.2	+3.6	+46.8%
大阪	0.2	0.4	0.2	▲0.1	▲29.6%	0.4	+0.0	+1.7%
兵庫	26.4	32.4	33.8	+7.4	+27.9%	41.8	+9.5	+29.3%
奈良	5.1	6.9	4.9	▲0.2	▲3.7%	7.9	+1.1	+15.4%
和歌山	1.1	1.0	2.1	+1.0	+97.0%	2.4	+1.5	+152.8%
鳥取	18.9	20.4	31.5	+12.6	+66.4%	33.3	+12.9	+63.0%
島根	19.8	18.8	23.1	+3.3	+16.5%	23.3	+4.5	+24.2%
岡山	24.0	31.7	30.6	+6.6	+27.4%	38.3	+6.7	+21.0%
広島	32.2	30.8	31.2	▲1.0	▲3.0%	31.2	+0.3	+1.1%
山口	23.9	24.2	29.5	+5.6	+23.3%	30.9	+6.7	+27.5%
徳島	7.0	6.1	11.9	+5.0	+71.5%	11.1	+5.0	+81.3%
香川	8.3	13.4	12.0	+3.7	+44.3%	17.6	+4.2	+31.6%
愛媛	7.8	9.0	8.9	+1.1	+13.8%	11.3	+2.3	+25.9%
高知	6.0	5.5	8.8	+2.8	+45.8%	8.5	+3.0	+55.3%
福岡	23.7	36.5	36.7	+13.1	+55.3%	52.6	+16.1	+44.0%
佐賀	18.2	20.5	22.6	+4.4	+24.5%	27.5	+7.0	+34.0%
長崎	4.8	6.1	7.1	+2.2	+46.6%	10.3	+4.2	+68.1%
熊本	21.9	29.0	36.3	+14.5	+66.1%	42.9	+13.9	+47.9%
大分	7.9	12.8	15.4	+7.4	+93.6%	18.9	+6.1	+47.4%
宮崎	6.7	7.1	11.6	+4.9	+73.5%	11.4	+4.3	+60.9%
鹿児島	8.4	11.8	16.4	+8.0	+95.3%	22.5	+10.6	+89.7%
沖縄	0.1	0.1	0.2	+0.2	+185.9%	0.3	+0.2	+274.9%
全国	244万ﾄﾝ	259万ﾄﾝ	306万ﾄﾝ	+62万ﾄﾝ	+25.4%	329万ﾄﾝ	+70万ﾄﾝ	+27.0%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注：1　水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
　　2　報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
　　3　令和7年8月及び9月には、売り渡した政府備蓄米の数量（7年8月：1.8万トン、7年9月：1.0万トン）を含む。

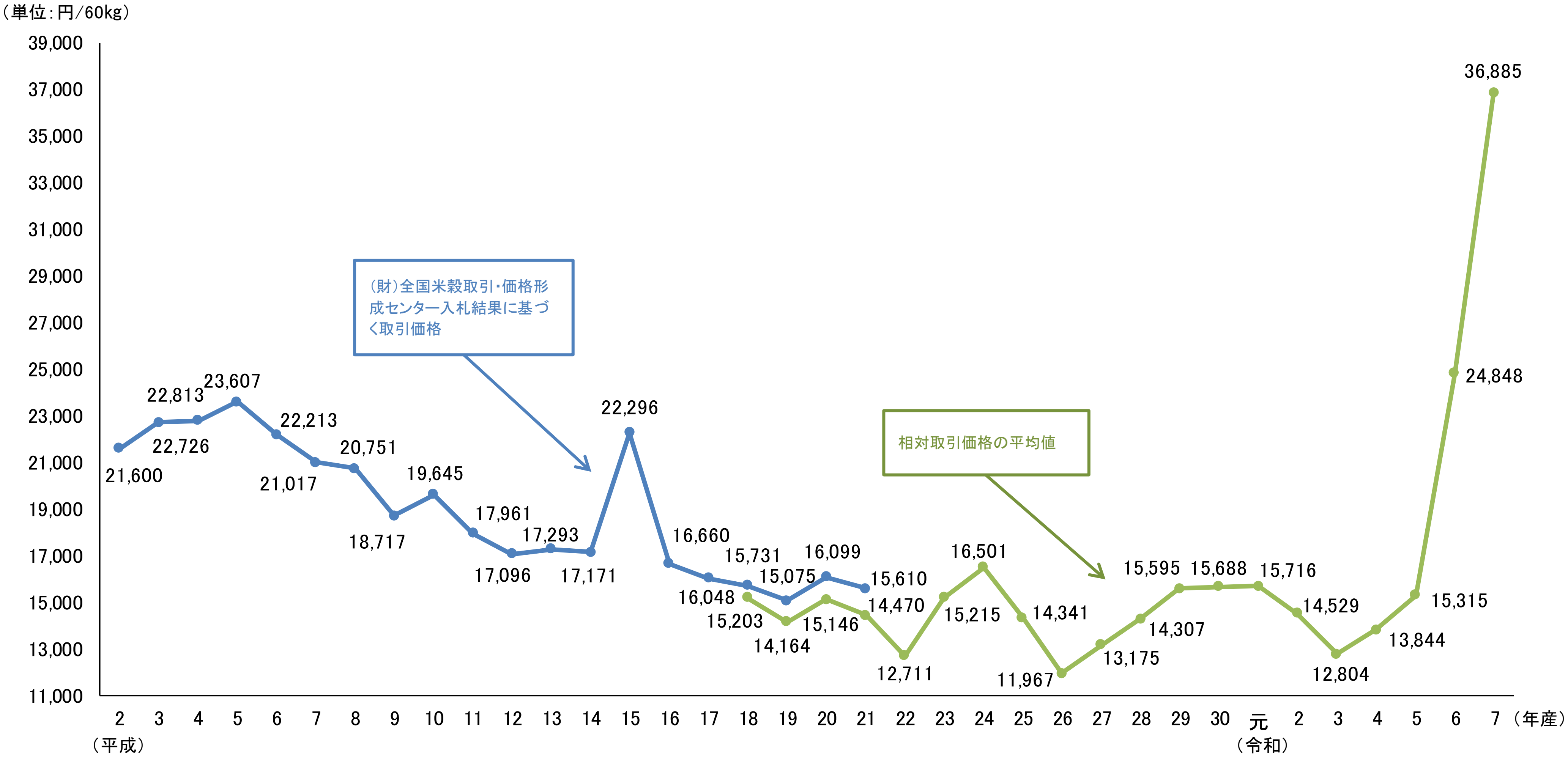
相対取引価格の推移（令和３年産～令和７年産）

- 令和７年産米の令和７年11月の相対取引価格は、全銘柄平均で36,493円/玄米60kgとなり、対前年同月＋12,532円（＋52%）、対前月▲565円（▲2%）となったところ。また、取引数量は、24.6万トン（対前年同月比＋64%）となった。
- 年産平均価格は36,803円/玄米60kgとなり、対前年＋11,624円（＋46%）となった。



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注１：運賃、包装代、消費税相当額を含む１等米の価格である。
　２：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（７年産は出回りから令和７年11月までの速報値）の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。

長期的な主食用米の価格の動向



資料：（財）全国米穀取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「相対取引価格」
注１：価格には、包装代、運賃、消費税相当額等を含む。
注２：年産別平均価格（令和６年産及び令和７年産は、出回りから令和７年９月までの速報値）。

※・コメ価格センター取引は、自主流通米の指標価格の形成を図るために実施されていたが、平成16年の食糧法改正により計画流通制度が廃止され、義務上場がなくなったこと等を背景に取引が低調となり、平成21年産をもって取引を中止。
・コメ価格センター取引が低調となったことを受けて、コメ価格センター取引価格の指標性を確認する観点から、相対取引価格について、農林水産省が18年産米から年間取扱数量5,000ﾄﾝ以上の全国出荷団体等と卸売業者の取引価格を調査、公表。その後も米の価格動向を把握するため引き続き実施。

令和7年産米の相対取引価格（令和7年11月の年産平均価格）

（単位：円／玄米60kg（税込））

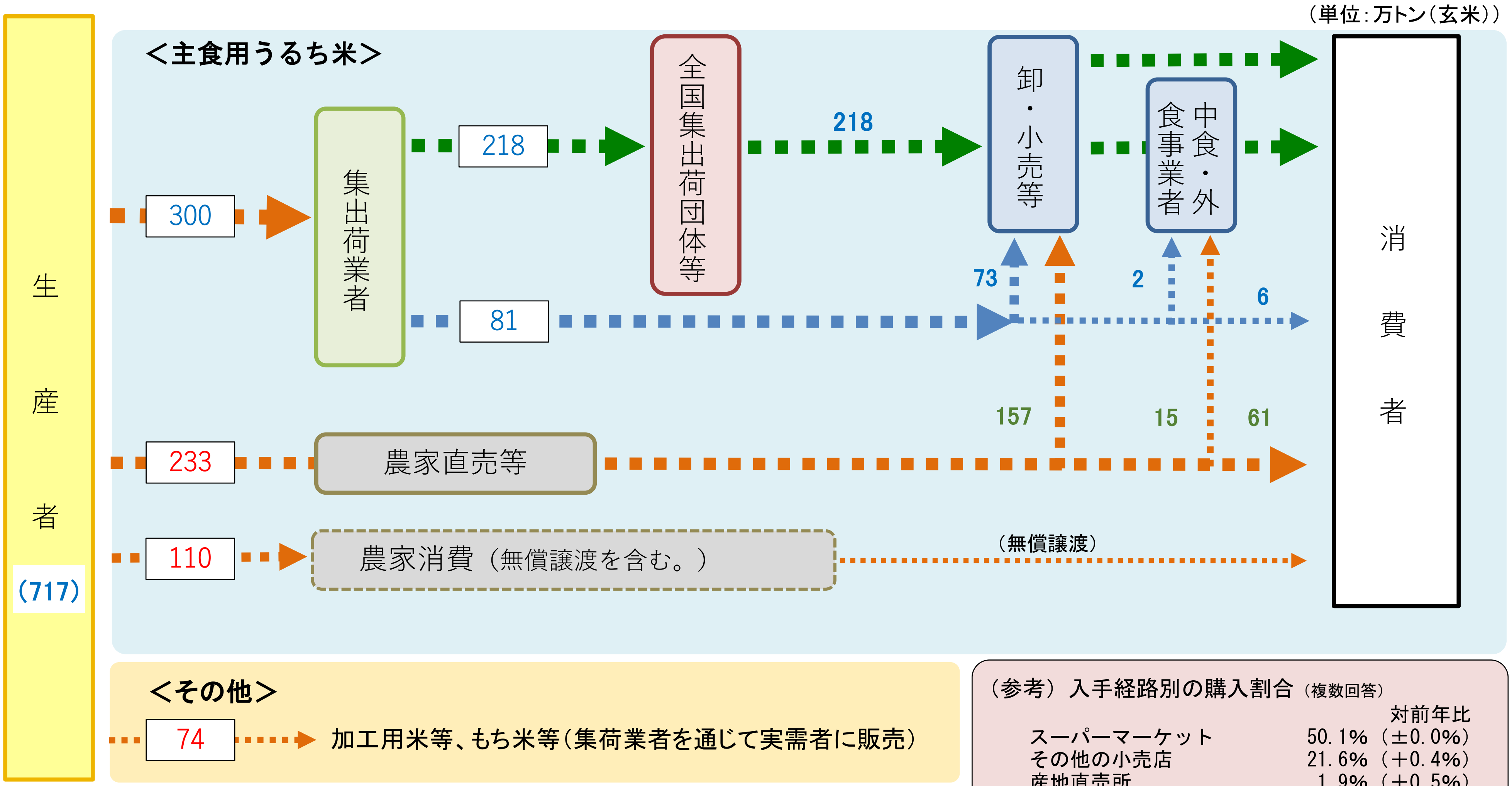
産地品種銘柄		令和７年産（出回り～7年11月）①	令和６年産（出回り～7年10月）②	価格差 ①－②
北海道	ななつぼし	35,812	27,035	+ 8,777
北海道	ゆめぴりか	37,062	28,034	+ 9,028
北海道	きらら３９７	35,353	26,349	+ 9,004
青森	まっしぐら	36,832	26,297	+ 10,535
青森	はれわたり	36,953	-	-
岩手	ひとめぼれ	37,185	24,101	+ 13,084
岩手	銀河のしずく	37,456	24,387	+ 13,069
岩手	あきたこまち	38,268	25,413	+ 12,855
宮城	ひとめぼれ	37,394	24,315	+ 13,079
宮城	つや姫	35,765	24,276	+ 11,489
宮城	ササニシキ	39,109	24,726	+ 14,383
秋田	あきたこまち	38,994	24,806	+ 14,188
秋田	めんこいな	37,654	23,770	+ 13,884
秋田	ひとめぼれ	37,401	22,285	+ 15,116
山形	はえぬき	36,049	25,804	+ 10,245
山形	つや姫	40,054	28,137	+ 11,917
山形	雪若丸	37,371	26,676	+ 10,695
福島	コシヒカリ（中通り）	37,286	27,013	+ 10,273
福島	コシヒカリ（会津）	38,840	26,437	+ 12,403
福島	コシヒカリ（浜通り）	36,965	26,069	+ 10,896
福島	天のつぶ	35,782	24,772	+ 11,010
福島	ひとめぼれ	36,792	26,343	+ 10,449
茨城	コシヒカリ	37,845	28,223	+ 9,622
茨城	あきたこまち	36,108	26,462	+ 9,646
茨城	にじのきらめき	35,897	26,785	+ 9,112
栃木	コシヒカリ	37,434	25,295	+ 12,139
栃木	とちぎの星	35,682	24,927	+ 10,755
栃木	あさひの夢	36,070	24,600	+ 11,470
群馬	あさひの夢	36,048	27,033	+ 9,015
群馬	にじのきらめき	-	-	-
埼玉	彩のきずな	34,577	23,846	+ 10,731
埼玉	彩のかがやき	-	26,145	-
埼玉	コシヒカリ	35,631	24,746	+ 10,885
千葉	コシヒカリ	36,939	24,169	+ 12,770
千葉	ふさこがね	33,967	23,591	+ 10,376
千葉	ふさおとめ	33,444	23,384	+ 10,060
山梨	コシヒカリ	36,458	19,758	+ 16,700
長野	コシヒカリ	36,856	23,438	+ 13,418
長野	あきたこまち	35,035	23,015	+ 12,020
静岡	コシヒカリ	32,981	23,512	+ 9,469

産地品種銘柄		令和７年産（出回り～7年11月）①	令和６年産（出回り～7年10月）②	価格差 ①－②
静岡	きぬむすめ	25,958	22,393	+ 3,565
静岡	にこまる	-	24,397	-
新潟	コシヒカリ（一般）	39,123	25,636	+ 13,487
新潟	コシヒカリ（魚沼）	42,286	26,517	+ 15,769
新潟	コシヒカリ（佐渡）	39,702	25,253	+ 14,449
新潟	コシヒカリ（岩船）	39,270	25,140	+ 14,130
新潟	こしいぶき	35,294	23,552	+ 11,742
富山	コシヒカリ	36,536	26,635	+ 9,901
富山	てんたかく	35,870	24,725	+ 11,145
富山	富富富	35,362	-	-
石川	コシヒカリ	35,993	23,317	+ 12,676
石川	ゆめみづほ	33,466	21,948	+ 11,518
石川	ひゃくまん穀	38,025	-	-
福井	コシヒカリ	32,934	21,494	+ 11,440
福井	ハナエチゼン	32,720	21,166	+ 11,554
福井	あきさかり	32,655	21,213	+ 11,442
岐阜	ハツシモ	39,011	25,448	+ 13,563
岐阜	コシヒカリ	38,887	25,604	+ 13,283
岐阜	ほしじるし	-	24,165	-
愛知	あいちのかおり	-	24,203	-
愛知	コシヒカリ	-	-	-
愛知	大地の風	-	-	-
三重	コシヒカリ（一般）	39,464	23,303	+ 16,161
三重	コシヒカリ（伊賀）	39,722	23,672	+ 16,050
三重	キヌヒカリ	38,502	22,429	+ 16,073
滋賀	コシヒカリ	35,036	23,771	+ 11,265
滋賀	みずかがみ	34,805	23,782	+ 11,023
滋賀	キヌヒカリ	33,720	24,177	+ 9,543
京都	コシヒカリ	36,639	22,946	+ 13,693
京都	キヌヒカリ	32,712	20,348	+ 12,364
京都	ヒノヒカリ	-	22,074	-
兵庫	コシヒカリ	38,068	23,954	+ 14,114
兵庫	ヒノヒカリ	34,975	23,327	+ 11,648
兵庫	キヌヒカリ	35,768	22,613	+ 13,155
奈良	ヒノヒカリ	-	21,684	-
鳥取	きぬむすめ	36,094	24,575	+ 11,519
鳥取	コシヒカリ	36,598	23,519	+ 13,079
鳥取	ひとめぼれ	36,003	23,777	+ 12,226
島根	きぬむすめ	34,318	19,943	+ 14,375
島根	コシヒカリ	36,046	20,761	+ 15,285

産地品種銘柄		令和７年産（出回り～7年11月）①	令和６年産（出回り～7年10月）②	価格差 ①－②
島根	つや姫	35,760	20,464	+ 15,296
岡山	アケボノ	35,051	25,558	+ 9,493
岡山	きぬむすめ	35,808	25,351	+ 10,457
岡山	コシヒカリ	36,318	25,341	+ 10,977
広島	コシヒカリ	36,403	22,696	+ 13,707
広島	あきさかり	35,779	21,511	+ 14,268
広島	あきろまん	35,910	22,305	+ 13,605
山口	コシヒカリ	35,573	22,575	+ 12,998
山口	ひとめぼれ	35,064	22,173	+ 12,891
山口	きぬむすめ	34,967	22,245	+ 12,722
徳島	コシヒカリ	36,149	23,568	+ 12,581
徳島	あきさかり	32,708	22,633	+ 10,075
香川	ヒノヒカリ	34,225	22,552	+ 11,673
香川	コシヒカリ	34,765	22,515	+ 12,250
香川	あきさかり	34,225	22,127	+ 12,098
愛媛	コシヒカリ	38,233	21,469	+ 16,764
愛媛	ひめの凜	-	-	-
愛媛	ヒノヒカリ	-	23,901	-
高知	コシヒカリ	35,299	22,339	+ 12,960
高知	ヒノヒカリ	34,327	21,367	+ 12,960
福岡	夢つくし	32,277	24,163	+ 8,114
福岡	ヒノヒカリ	34,447	24,616	+ 9,831
福岡	元気つくし	34,051	25,241	+ 8,810
佐賀	さがびより	36,027	22,228	+ 13,799
佐賀	夢しずく	35,519	21,691	+ 13,828
佐賀	ヒノヒカリ	-	-	-
長崎	にこまる	35,192	24,307	+ 10,885
長崎	なつほのか	34,980	24,089	+ 10,891
長崎	ヒノヒカリ	34,765	23,743	+ 11,022
熊本	ヒノヒカリ	36,702	25,821	+ 10,881
熊本	森のくまさん	-	23,519	-
熊本	コシヒカリ	34,733	24,406	+ 10,327
大分	ヒノヒカリ	35,376	24,265	+ 11,111
大分	なつほのか	35,249	24,358	+ 10,891
大分	ひとめぼれ	34,888	24,246	+ 10,642
宮崎	コシヒカリ	36,508	22,600	+ 13,908
宮崎	ヒノヒカリ	-	27,076	-
鹿児島	ヒノヒカリ	-	29,258	-
鹿児島	あきほなみ	-	32303	-
鹿児島	コシヒカリ	31,683	21,140	10,543
全銘柄平均価格		36,803	25,179	+ 11,624

注1：農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格（令和7年産は出回りから7年11月までの速報値）であり、調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者（年間の販売数量5,000トン以上等）。
　2：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、価格に含む消費税は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。
　3：「－」については、当該年産において報告対象としていない産地品種銘柄又は取引数量の累計が100トン未満であり、公表を行ってないもの。

米の流通経路別流通量の状況（令和５年産米）



資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀在庫等調査」、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

注１：集出荷業者には、全集連系を含む（ＪＡ等への出荷量300万トンのうち20万トンが全集連系）。
注２：「卸・小売等」には、加工事業者等を含む。
注３：ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

（参考）入手経路別の購入割合（複数回答）

		対前年比
スーパーマーケット	50.1%	（±0.0%）
その他の小売店	21.6%	（＋0.4%）
産地直売所	1.9%	（＋0.5%）
インターネット	8.6%	（▲0.3%）
生産者から直接購入	4.8%	（＋0.2%）
無償譲渡	15.3%	（±0.0%）

※　米穀安定供給確保支援機構調べを元に農林水産省で算出（令和５年４月から令和６年３月の年平均）

米の流通の状況（平成16年～令和５年産米）

【生産段階】

（単位：万トン（玄米））

年産	生産量													
			出荷・販売		農家消費等		その他							
									加工用米等		もち米		減耗	
H16	872	100.0%	636	72.9%	180	20.6%	56	6.4%	12	1.4%	27	3.1%	17	1.9%
17	906	100.0%	653	72.1%	183	20.2%	62	6.8%	13	1.4%	31	3.4%	18	2.0%
18	855	100.0%	631	73.8%	165	19.3%	59	6.9%	15	1.8%	27	3.2%	17	2.0%
19	871	100.0%	632	72.6%	174	20.0%	65	7.5%	17	2.0%	31	3.6%	17	2.0%
20	882	100.0%	636	72.1%	172	19.5%	64	7.3%	16	1.8%	30	3.4%	18	2.0%
21	847	100.0%	624	73.7%	161	19.0%	62	7.3%	16	1.9%	29	3.4%	17	2.0%
22	848	100.0%	594	70.0%	174	20.5%	71	8.3%	22	2.6%	32	3.8%	17	2.0%
23	840	100.0%	604	71.9%	170	20.2%	66	7.9%	16	2.0%	33	3.9%	17	2.0%
24	852	100.0%	616	72.3%	167	19.5%	69	8.1%	19	2.2%	33	3.9%	17	2.0%
25	860	100.0%	626	72.8%	165	19.2%	69	8.0%	21	2.4%	31	3.6%	17	2.0%
26	844	100.0%	616	73.1%	154	18.3%	73	8.7%	27	3.2%	30	3.5%	17	2.0%
27	799	100.0%	579	72.5%	146	18.3%	74	9.2%	25	3.1%	33	4.1%	16	2.0%
28	804	100.0%	582	72.3%	146	18.1%	77	9.6%	26	3.2%	35	4.4%	16	2.0%
29	782	100.0%	569	72.8%	139	17.7%	74	9.5%	26	3.3%	33	4.2%	16	2.0%
30	778	100.0%	576	74.0%	130	16.7%	73	9.3%	28	3.6%	29	3.7%	16	2.0%
R元	776	100.0%	577	74.3%	129	16.6%	70	9.1%	27	3.4%	28	3.7%	16	2.0%
2	776	100.0%	580	74.7%	124	16.0%	72	9.3%	28	3.5%	29	3.8%	16	2.0%
3	756	100.0%	561	74.2%	121	16.0%	74	9.8%	28	3.7%	31	4.1%	15	2.0%
4	727	100.0%	537	73.9%	115	15.8%	75	10.3%	29	4.0%	31	4.2%	15	2.0%
5	717	100.0%	533	74.3%	110	15.4%	74	10.3%	29	4.0%	30	4.2%	14	2.0%

【出荷・販売段階】

（単位：万トン（玄米））

年産	出荷・販売															
			農協						全集連系業者						生産者直接販売等	
					販売委託		直販				販売委託		直販			
H16	636	72.9%	390	44.7%	350	40.1%	40	4.6%	20	2.3%	7	0.8%	12	1.4%	226	25.9%
17	653	72.1%	405	44.7%	352	38.9%	53	5.8%	22	2.4%	8	0.9%	13	1.4%	226	24.9%
18	631	73.8%	384	44.9%	320	37.4%	64	7.5%	21	2.5%	9	1.1%	13	1.5%	227	26.5%
19	632	72.6%	378	43.4%	308	35.4%	70	8.0%	21	2.4%	9	1.0%	13	1.5%	232	26.6%
20	636	72.1%	390	44.2%	303	34.4%	87	9.9%	21	2.4%	8	0.9%	14	1.6%	224	25.4%
21	624	73.7%	372	43.9%	294	34.7%	78	9.2%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	230	27.2%
22	594	70.0%	369	43.5%	285	33.6%	84	9.9%	21	2.5%	6	0.7%	15	1.8%	203	24.0%
23	604	71.9%	351	41.8%	266	31.7%	85	10.1%	21	2.5%	6	0.8%	15	1.8%	232	27.6%
24	616	72.3%	352	41.3%	273	32.1%	79	9.3%	21	2.4%	6	0.7%	15	1.8%	243	28.6%
25	626	72.8%	373	43.4%	293	34.0%	81	9.4%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	231	26.8%
26	616	73.1%	369	43.7%	285	33.8%	84	10.0%	24	2.8%	9	1.0%	15	1.8%	223	26.5%
27	579	72.5%	344	43.1%	258	32.3%	86	10.7%	22	2.7%	7	0.9%	14	1.8%	213	26.7%
28	582	72.3%	338	42.1%	252	31.3%	86	10.8%	22	2.7%	6	0.8%	16	1.9%	221	27.5%
29	569	72.8%	315	40.3%	234	29.9%	81	10.4%	20	2.6%	5	0.7%	15	1.9%	234	29.9%
30	576	74.0%	298	38.4%	219	28.1%	80	10.2%	19	2.4%	5	0.6%	13	1.7%	259	33.3%
R元	577	74.3%	308	39.7%	231	29.7%	77	10.0%	21	2.7%	6	0.8%	14	1.9%	247	31.9%
2	580	74.7%	312	40.2%	242	31.2%	70	9.0%	21	2.7%	6	0.8%	15	1.9%	246	31.7%
3	561	74.2%	303	40.1%	240	31.7%	63	8.4%	21	2.7%	5	0.7%	15	2.0%	238	31.4%
4	537	73.9%	284	39.0%	220	30.2%	64	8.8%	19	2.6%	4	0.6%	14	2.0%	235	32.3%
5	533	74.3%	279	39.0%	214	29.9%	66	9.2%	20	2.8%	4	0.6%	16	2.2%	233	32.5%

資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀現在高等調査」（22年産以降は「生産者の米穀在庫等調査」）、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

注：１）平成21年産までの推計に用いた「生産者の米穀現在高等調査」と22年産以降の推計に用いている「生産者の米穀在庫高等調査」では調査対象農家の定義が異なる（前者は10ａ以上稲を作付（子実用）している農家、後者は販売目的の水稲の作付面積が10a以上の販売農家が対象）ことから、22年産から推計手法を変更している。

２）生産段階には、このほか、①集荷円滑化対策による区分出荷米（17年産8万トン、20年産米10万トン）、②品質低下に伴う歩留り減（22年産米10万トン）がある。

３）ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。